

第29回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2016.06.10 藤澤まどか

『持続性選択的 DPP-4 阻害剤 ザファテック錠』

武田薬品工業（株）篠原 海人さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：沢先生、内科職員さん、相原美穂、熊山ともみ、空田さやか、藤澤まどか

現在、日本における糖尿病の有病率は高率で推移しており、厚生労働省の「平成 24 年国民健康・栄養調査結果」の概要では、糖尿病が強く疑われる者は約 950 万人、糖尿病の可能性を否定できない者は約 1100 万人にのぼると推計されている。また、2 型糖尿病の治療は多剤併用となる傾向があり、患者さんの服薬アドヒアランス低下が問題となっている。本剤は週 1 回投与で良好な血糖コントロールを実現するため、患者さんの負担の軽減に貢献するとともに、服薬アドヒアランスの向上に寄与することが期待されている。

<効能・効果>

2 型糖尿病

<用法用量>

通常、成人にはトレラグリプチンとして 100mg を 1 週間に 1 回経口投与する。

※中度腎機能障害患者へは、排泄の遅延により本剤の血中濃度が上昇するため、投与量を減量する。

<副作用>

承認時までの国内の臨床試験では、901 例中の 103 例（11.4%）に臨床検査値の異常を含む副作用が認められた。主なものは、低血糖、鼻咽頭炎、リパーゼ上昇等であった。

<特徴>

メリット

- ・ 服薬アドヒアランスの向上が期待できる
- ・ 医療費の削減につながる
- ・ 飲み忘れ時は気づいた時に服用できる
 - ◇ daily 製剤として開発されていた背景を持ち、100mg を 12 週間連日投与した臨床試験において有害事象の発現率は、プラセボ群と大きな差は無かったというデータがある。
- ・ 飲み間違い時の副作用リスクが低い
 - ◇ 200mg を週 1 回投与した臨床試験において有害事象の発現率は、プラセボ、100mg 週 1 回投与時と比較して大きな違いは無かったというデータがある。

デメリット

- ・ 副作用頻度が 11.4%と多い
- ・ 病識が薄れる
- ・ 高度腎機能患者、透析患者に禁忌

〈考察〉

本剤は、患者さんの利便性や医療費削減といった観点から有用な薬剤であり、特に服薬アドヒアランス不良で血糖コントロールが上手くいかない患者さんに対しては、薬剤師から積極的に情報提供を行い治療の選択肢を提示できるようにしたい。ただし、服用回数が減ることによって病識が薄くなる、腎機能の低下した患者さんでは副作用頻度が高くなるといったリスクもあるため、薬剤師は個々の患者さんの病態に合った、より適切な提案をしていく必要がある。